

# 第51回市展市長賞作品紹介

第51回取手市民美術展が開催されました。日本画・洋画・彫刻・書・写真・工芸・デザインの各部門で市長賞を受賞した作品を紹介します。

☎ 文化芸術課 ☎ 内線 1292



**洋画『2020』** 根本徹さん  
 とおる  
 線路わきに建っていた廃屋のたたずまいが気に入り、何枚も角度を変えてスケッチし、その中から組み合わせて油絵にしました。今年の象徴的な図柄に思えて、あえて意識的に色彩を抑え描きました。



**工芸『桜花姉妹壺』**  
 おうかきょうだいつぼ  
 寺崎克也さん

陶芸を始めて3年の私に、豊かで美しく、歴史と伝統に育まれた文化の市からこのような賞を頂き、身に余る光栄です。これを機にまた精進します。



**写真『朝陽の絶景』**  
 あさひ  
 桐生さよ子さん  
 朝陽が出ることを願って、何度も早朝に行ったあけぼの山農業公園です。自分が思い描いていた情景とぴったりと重なったことにより、感動しながら撮った1枚です。



**日本画『山』** 神戸祥三さん  
 かんべ  
 富士山はずっとシリーズでいろいろ描いてきました。いつどこで見る富士山も神々しく私の心を穏やかにしてくれます。これを励みに今後も精進してまいります。



**彫刻『ポメリーカフェ』**  
 伊藤園子さん

りんごをモチーフにしたキャラクター「ポメリー」や動物が集まる、にぎやかなカフェを演出しました。赤い蝶ネクタイをしている猫店長は、テーブルに料理を並べて、みんなと楽しい時間を過ごしています。

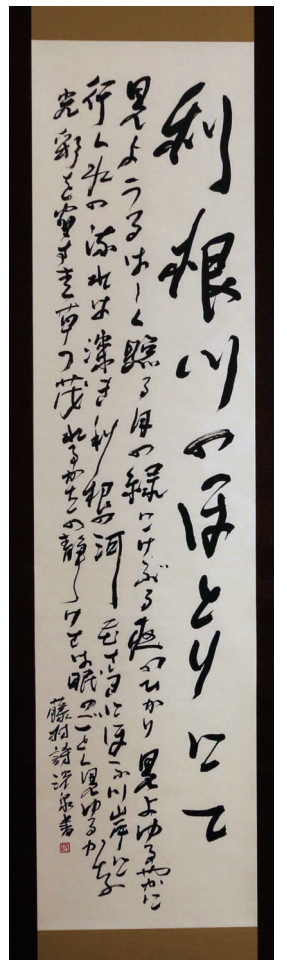


**デザイン『水草の浮かぶ風景』**  
 遠藤弘子さん

娘の結婚式のブーケを記念に残してあげようと始めてから20数年間楽しんでいました。友達の勧めもあり、出展しましたが、このような立派な賞を頂き、大変驚いています。

**書『利根川のほとりにて』**  
 宮下洗泉さん

広く親しまれている島崎藤村の詩です。よどみなく流れる利根川の情景を思い自然体で、力強く表現するために墨の濃淡、余白などに留意しながら書きました。



## 市長 Mayor's column コラム

とりでアートギャラリーは冬場も充実しています



取手市長

藤井信吾

本年の取手市民美術展は、10月30日から12月7日までの間、第1部、日本画・洋画・彫刻、第2部、書・写真・工芸・デザイン、第3部、小・中学生の作品ということで実施をいたしました。取手市民美術展は本年で51回を数えますが、年々、出展される作品の水準が上がってきております。芸術を愛好し、創作に打ち込み、人々を感動させてやまない作品を出展していただいた市民の皆さまに心より感謝を申し上げます。

私は、表彰式の中で、「春先以降の新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い、芸術文化活動を支えてきたハード、ソフトのインフラが制約を受ける中でも、皆さまの創作にける意欲が逆に強められたと思われるような、力強い

作品の多くに圧倒されています」とごあいさつを申し上げました。混沌とした世相の中でも、真善美を追い求め、労苦を惜しまず一事に精進することの凛とした気高さがホールに満ちていた展覧会であったと思います。私は、期間中、何度か足を運び、ゆっくりと作品を堪能させていただきましたが、旧きらりの時とは比較にならないほど、会場の質感が全く別のものに生まれ変わったという評価を多くの皆さまにいただきました。

とりでアートギャラリー（アトレ取手4階）はこれからの冬場も盛りだくさんの展覧会やイベントを実施してまいります。現在は、12月23日までの会期中、アトレ取手と市共催による東京芸術大学佐藤時啓研究室有志展を行っ

ております。年が明けますと、1月9日から1月20日までの間、取手在住の地元作家の先生方の出展により「取手美術作家展」が開催されます。さらに2月13日から2月25日まで、物語者の作品も含む「とりで美術の歩み展（企画展）」を開催いたします。

取手駅ビル（アトレ）の4階が生まれ変わったことをまだ、ご存じではない方がたくさんおられるのではないかと私は感じております。JRの改札口のすぐ上に、これだけの面積をアート専用で確保している場所は、他に例をみません。ぜひ、多くの方に足を運んでいただき、これからもアートを支えるファンとなっていただければと思います。